

エネルギー資源をめぐり競合する産業間の需要調整

持続可能な交通への移行

交通部門の脱炭素化は、再生可能電力、低炭素水素燃料、バイオ燃料、合成燃料等の、新しいエネルギー資源の需要増大につながる。世界の気候変動目標達成と、それによる代替エネルギー資源の需要を同時に満たすためには、再生可能エネルギーの供給量を前例のないスピードで拡大する必要がある。潜在的なエネルギー供給不足が顕在化すれば、交通部門は、建設業や製造業等の他の産業部門との競争、あるいは交通部門内の交通モード間の競争にさらされる危険性がある。

これらの希少性が高い再生可能エネルギー資源の供給を管理し、適切な用途に優先して配分するように市場を誘導するためには、各国政府は分野横断的な「メリット・オーダー」に基づく規制を策定する必要がある。

本報告書は、各国政府が長期的なエネルギー計画において、交通部門と他産業部門の整合性を保ちながら脱炭素化する政策を策定する支援を提供するものである。また、供給のボトルネックとなる要因および、国際協力を促進するアプローチも、適宜検討する。

政策提言

- 限られたエネルギー資源を有効活用するための、排出量削減効果による優先順位の規定。
- 脱炭素化の代替手段が限られている産業分野における、バイオ燃料と合成燃料の利用優先。
- エネルギー効率を向上させるための、可能な限り最終利用形態の電化の促進。
- より環境効果の高い産業分野における水素需要を優先して満たすための、道路交通の水素利用を義務化する規制の回避。
- 供給の自由化と需要の規制による、主要エネルギー資源における供給不足の回避。

本資料（仮訳）は OECD 国際交通フォーラムが翻訳したものではないため、OECD 国際交通フォーラムの公式翻訳とはみなされない。原文と仮訳の間に相違がある場合は、原文のみが有効である。